

講義名	中国語中級B			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

すでに学んだ中国語の基礎を復習しながら、さらに新しいものを積み上げ、中国語の運用に必要な知識を一通りすべて学びます。中国語の文法は、英語のように多くはありませんが、それを運用できるかどうかが問題です。中国語学習者にありがちなタイプとして、発音を軽視し、リスニングはまったくお手上げという人がいます。「聞く、話す、書く、読む」すべてにおいて、中級レベルに達しなければ意味がありません。自分に足りない部分を知り、弱いところは、初心に戻って学び直す必要があります。

到達目標

基本的な文章を読み、書くことができるようになる
簡単な日常会話ができるようになる
中国語検定試験のレベルを目安とすると、3級レベルの中国語を学習します。検定3級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

必要に応じて授業で指示します

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は返却した上で、講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
平常点（出席状況、受講態度） 20%
中間試験と期末試験 80%

履修にあたっての注意・助言他

ややレベルの高い中国語クラスです。対象学生は「ブラッシュアップ中国語」を終えた人、GSP（グローバル・スタディーズ・プログラム）生などを想定しています。初心者向けの授業ではありません

教科書

・教材はプリントを配布します。

参考図書

その他

特になし

授業計画

1. 授業案内、ウォーミングアップ
- 2～3. 第6課：网购
- 4～5. 第7課：製菓、製衣
- 6～7. 第8課：大学生のアルバイト、多学习
- 8～9. 第9課：表示感嘆的習慣
10. 中間試験
- 11～12. 第10課：年轻人的就业观
- 13～14. 第11課：月光族15
15. 第12課：海外的汉语奇遇

テキストと授業進度について
テキストは前期科目「中国語中級A」（小笠原恵子先生）と『中国語への道』（金星堂）を共有します。この「中国語中級B」でテキストの後半に取り組み予定です。授業1.5～2回で1課を消化するペースを目安とします。学期の途中で中間試験を実施します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="checkbox"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E：グループワーク
<input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】
新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で作成してください
次の授業で学ぶところに目を通し、分かったところと分からないところを、明確にしておいてください
テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください
可能であれば、講義を音読してみる
（以上、2時間程度）
【復習】
授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返り」を行ってください
ドリルなどの宿題をします。今週学んだポイントの定着を図ります
講義のピンインを手書きし、ピンインを体で覚えさせます
テキスト付属のCDを聞きながら、講義を読み直します
（以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指す

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考